

37 キョウジョシギ

(チドリ目)

Arenaria interpres

兵庫県ランク: C

繁殖個体群:無 越冬個体群:無 通過個体群:C

環境省ランク:

種の概要

北ヨーロッパ北部からシベリア北部、アラスカ北部、カナダ北部、グリーンランドの北極圏などで繁殖し、繁殖後は熱帯域や南半球に渡り、越冬する。日本には春秋の渡りの時期に渡来するが、沖縄では一部が越冬する。干潟、河口、岩礁海岸などに生息する。嘴を小石や貝殻などの下に差し込み裏返して、その下に潜むカニやトビムシ、貝などを捕食する。昆虫や死んだ魚も食べる。

国内分布

北海道、南千島、礼文島、利尻島、天売島、本州、飛島、佐渡、舩倉島、竹島、見島、四国、九州、対馬、壱岐、五島列島、男女群島、上三島諸島、種子島、屋久島、伊豆諸島、小笠原群島、西之島、硫黄列島、南鳥島、トカラ列島、奄美諸島、琉球諸島、大東諸島



写真提供：鳥田陽子

(性別：不明)

県内分布 ★…2013年以降生息が確認されている市町

★神戸市、★姫路市、★明石市、★西宮市、★芦屋市、伊丹市、★豊岡市、★加古川市、赤穂市、★高砂市、加西市、南あわじ市、淡路市、福崎町、香美町

主要な選定理由

影響の人為性					生態の脆弱性 (特殊性)			学術上の 希少性	
個体数 激減	分布域 激減	餌の 可用性 の低下	特殊 競争 圧	特殊 捕食 圧	特殊 繁殖 環境	特殊 採餌 環境	ねぐ 特殊 ら休 息環 境・	局地的 繁殖	希少
						○	○		

県内における生息状況およびその他特記事項

ランク外から要注目ランクに変更。

県内では主に4-5月と8-10月に生息するが、6・7月にも稀に観察されている。古くは1966年5月に西宮市甲子園浜で300羽が記録されているように、瀬戸内海沿岸に多数渡来していたが、1990年頃には減少傾向にあった。最近は20羽前後の群れが観察されることも稀になり、通常は数羽から5-6羽程度の群れとなっている。今後の動向に注目する必要があることから、要注目ランクとした。

保護上の留意点

現在も生息が確認されている干潟の自然環境の保全に加えて、積極的な再生のための環境整備が重要。